

市街地におけるグラフィティの分布と特性

布川 悠介, 伊藤 史子

首都大学東京 都市環境科学研究科 都市システム科学域

連絡先: <nuno0825@gmail.com>

- (1) **動機:** 都市の外部空間に描かれる「グラフィティ (Graffiti)」と呼ばれる落書きはそれを描くもの(グラフィティライター)たちの独自の社会とルールの中で行われている行為である。グラフィティは 80 年代にアメリカから日本に渡り、現在では全国に広まっている。特に東京の都市部における被害は深刻な状況である。そこで本研究では、市街地におけるグラフィティの分布と都市要素との関係について空間分析を行うことで、グラフィティライターの行動特性を空間的に把握することが可能となると考えている。
- (2) **アプローチ:** 高円寺駅を中心とした半径 600m 以内を対象地域としている。グラフィティの位置データと、属性データとしてグラフィティの種類(タグ, スローアップ A, スローアップ B)とグラフィティが描かれた対象物の種類(建物直接, 建物付随物, 公共物)を調べた。これらの分布データをカーネル密度推定によって分布パターンを視覚化するとともにそれぞれの用途地域との関係について分析を行っている。その際、グラフィティライターがグラフィティを描く目的として「Exposure」と「Communication」の2つ存在すると考え、それぞれをスローアップ B と同一地点に 3 個以上グラフィティが描かれている地点とした。また、グラフィティ分布は駅からの距離にも関係があると考え、駅からの距離によるグラフィティ密度関数を推定した。
- (3) **意義:** 市街地におけるグラフィティライターの行動特性を空間的に把握することができる。本研究の結果か

ら示される落書きの描かれやすい場所の特性は落書き対策における有効な資料になると考えられる。

(4) **結果:**

- ・ 駅(0m 地点)からの距離に応じて密度は増加し、131m 地点でピークに達する。そして、131m 地点から遠ざかるごとに減衰していく。このことから多くのライターが駅周辺で行動していると考えられる。
 - ・ ライター間の敵対的な「Communication」行為は商業地域内においてよく行われていることが示唆された。
 - ・ 「Exposure」グラフィティはほとんど若者が多く訪れる高円寺駅南側の商業地域内に存在していることがわかった。
 - ・ 対象物別の分布域が公共物, 建物付随物, 建物直接の順に駅に向かって収束している。
 - ・ 全グラフィティは駅から約 300m の範囲に、建物直接の範囲は駅から約 200m までグラフィティが多く、これが現状において罪悪感を伴う心理的困難性が高くてもグラフィティが発生する場所だといえる。
- (5) **その他:** 本研究の一部は、東京大学空間情報科学研究センターの研究用空間データ利用を伴う共同研究(研究番号 225)による成果であり、以下のデータを利用した。
- ・ ZmapTown (shape 版)東京都杉並区

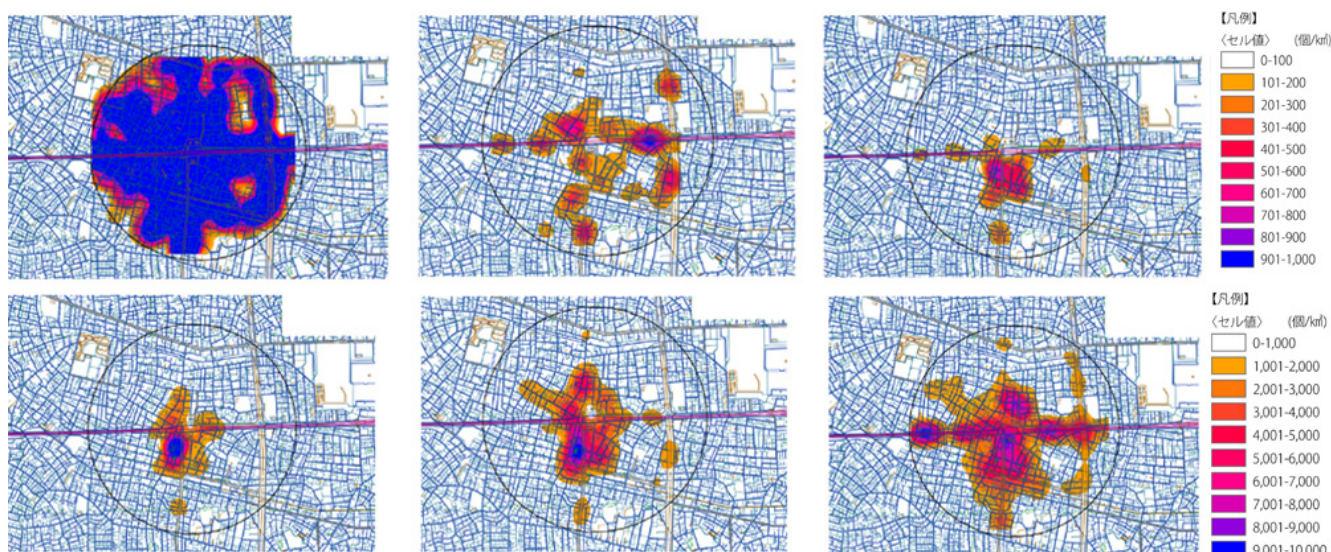


図 1: グラフィティの分布パターン
[上]種類別(左からタグ, スローアップ A, スローアップ B)
[下]対象物別(左から建物直接, 建物付随物, 公共物)